

埼玉県中学入試概況

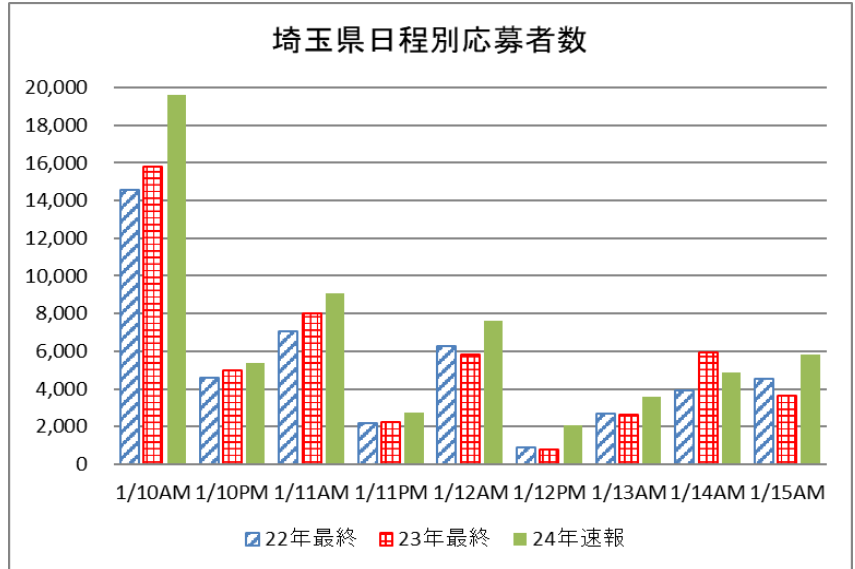
1. 概況 開智所沢開校で県内応募総数は大幅増加

埼玉県内の公立小6児童数は義務教育学校を含めて約 59,900 名で、昨年より約 1,700 名減っていますが、県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月28日現在では約 74,000 名で、昨年の最終が約 60,600 名でしたから約 13,400 名の激増です。昨年は一昨年より約 2,700 名、一昨年はその前年より約 6,500 名の増加と、大幅な増加が続いていましたが、今年はいけた違いの増加です。

埼玉県の各校は従来から東京都・神奈川県・千葉県の中学受験

の事前のお試し受験生が多く、昨年までの応募者の増加は埼玉県自体の中学受験の拡大だけでなく、お試し受験生の増加もあっての応募者増加でしたが、今年の拡大は様相が違って、武蔵野線東所沢駅至近の場所に、新設校として開智所沢中等が開校することで、その1期生の入試で全体の応募者が大きく増えたことが、全県の応募総数を大きく押し上げました。

ただし、開智所沢中等の開校人気だけで大きく増えたわけではなく、入試の方法に理由があります。開智所沢中等は、校舎の完成が入試に間に合わなかったこともあって、岩槻の開智と全く同じ問題を同じ日程で所沢地区をはじめ、各地のホールなどを借りて実施、岩槻の開智とは別に合格ラインを決めて合格者を発表しました。ウェブの出願では、開智と開智所沢中等のどちらかに出願するだけでなく、両方とも出願することもクリック1つで可能だったことから、多くの受験生が、お試しの意味も含めて両方に出願したため、応募者数は大幅に増えました。このような、開智グループ内の併願は、この両校だけでなく、埼玉県北部の開智未来や茨城県の開智望中等の開智併願入試、2月に実施された開智日本橋学園併願入試でも実施され、1回の入試でそれぞれ3校、4校と併願できることから、



全県合計の大幅な増加につながりました。

日程別の応募状況を上のグラフで確認していきます。他都県のグラフと同様、私立・国立・公立一貫校合計が本来ですが、国立の埼玉大附属は入試が2月1日でグラフには含まれていません。また、私立各校は一般入試が1月10日開始と、入試日程が日付でルール化されていますが、公立一貫校は曜日固定のため、年ごとに日程が動きます。そのため、同じ日付で見ると応募者数が大きく増減することがあります。

今年も応募総数では1月10日午前が最多ですが、昨年より3,800名以上増えて20,000名に迫る水準になりました。10日午後は約400名、11日午前は約1,000名の増加です。11日午後は約500名、12日午前は約1,800名、12日午後は約1,300名増加と、どの日程も応募者が増えています。グラフの中で14日午前だけは約1,000名減っていますが、これは公立一貫校の適性検査日程が移動した影響です。

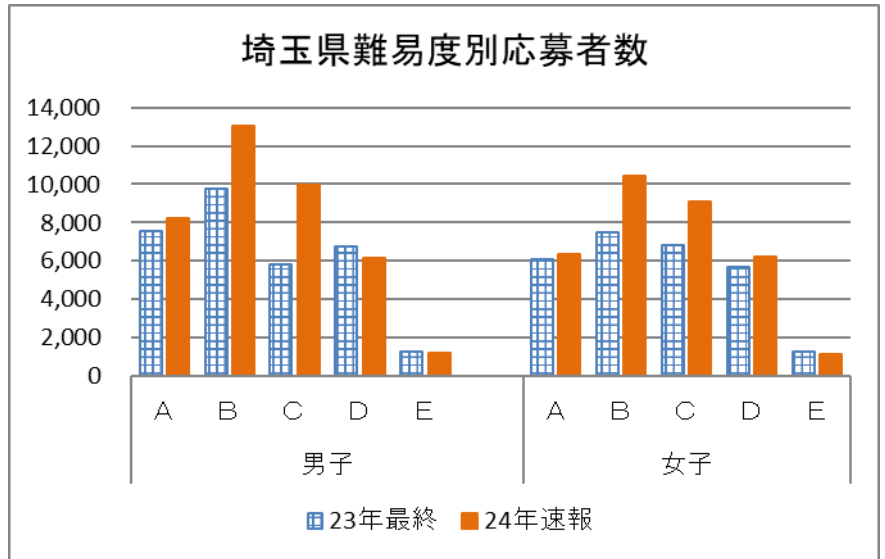
多くの日程で応募者が大きく増えていますが、特に12日午後は、もともと規模が小さくなりがちな午後入試なのに約1,300名というかなり大きな増加で、10日午後や11日午後の約400名や約500名が少なく見えてしまいます(通常の年なら400名や500名でも十分大

きな値です)。12日午後は開智、開智所沢中等の算数1科の特待入試があつて、この入試の応募者が大きく増えたことが理由です。

次に、難易度別での応募状況も考えてみます。右のグラフは各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べました。Aは難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。

共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子として合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校は右に一覧で表示しました。

各ランク合計では男子の方が女子より約5,000名多くなっていますが、東京都・神奈川県などからのお試し受験生は男子の方が多いことが理由です。女子にもお試し受験生は数多くいますが、遠距離の学校よりも東京都内や神奈川県内で実施される地方校の出張入試を選ぶケースが多く見られます。男子はBグループが最多で約13,000名、男子全体の約三分之一を占めていて、昨年より3,000名以上増えました。次はCグループで、昨年の6,000名弱から約10,000名に増加しています。最上位のAグループは約8,200名で700名近い増加です。一方、Dグループは約6,100名、Eグループは約1,200名で、それぞれ昨



◎ 難易度別グルーピング

本記事では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浦和明の星・開智(特待)・栄東(東大)
- B…大宮開成・開智(一般)・開智所沢中等(特待)・開智未来(T未来)・栄東(難関大)・淑徳与野・立教新座
- C…青学浦和ルーテル・大妻嵐山(奨学)・開智所沢中等(一般)・開智未来(未来)・春日部共栄(特待)・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・城西川越(特選)・昌平(T)・城北埼玉・西武台新座(特待)・西武文理(特待)・星野学園・細田学園(特待)
- D…浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)・春日部共栄(一般)・埼玉栄(進学)・狭山ヶ丘高付属・城西川越(総合一貫)・昌平(一般)・西武台新座(特待以外)・西武文理(一般)・東京農大第三・獨協埼玉・細田学園(一般)・本庄東高附属
- E…大妻嵐山(まなびカエキスパート)・埼玉平成・自由の森学園・秀明・聖望学園・東京成徳大深谷・武南・本庄第一

年より少し減っています。お試し受験も含めてですが、受験生の志向の中心はB、Cグループになっていて、Aグループだけに集中しているわけではなく(千葉県のグラフと比べるとわかります)、自分の実力よりもワンランク上を考える受験生が多くなっています。

女子もBグループが最多で約10,500名、昨年より約3,000名増加しています。次はCグループで約9,000名、昨年よりも2,000名を超える増加です。AグループとDグループはそれぞれ約6,300名で、昨年より少し増えています。Eグループは1,200名弱で、昨年よりやや減りました。男子ほど極端にB・Cグループ

に集中していないのは前述のように東京都内・神奈川県からのお試し受験が男子ほどは多くないことが影響しています。

以下、各校の状況を見ていきます。

2. さいたま市・その周辺地域

開智の話題ばかりに注目が集まりますが、栄東は今年もさらに応募者を少し増やし、各回次合計で14,000名を超えました。もちろん日本一が続いています。回次ごとでは増えた回次、少し減った回次があります。合格最低点は1月16日のB難関大が少し下がっていますが、出題内容の影響でしょう。他の回次は小幅な上下に留まっていますから、難度に変化はなさそうです。

岩槻の開智は昨年各回次合計の応募者数が約4,600名でしたが、今年は8,000名を超える大幅な増加になりました。前述のように開智所沢中等の開校で応募者を大きく増やしていますが、入試日程、回数に変更がないため、3,000名を超える応募者の増加が開智所沢中等の開校だけの理由とは考えにくく、岩槻の開智自体も人気が上がっている、と考えるのが自然でしょう。開智グループとしては、すでに都内の開智日本橋学園で国際バカロレアのディプロマプログラムを実施していますが、岩槻の開智でも今後国際バカロレアのプログラムを実施する予定です。こうした教育内容が受験生に支持されているのでしょう。合格最低点は特待認定も含めて上下が見られる回次もありますが、得点分布で合否や特待認定を決めているようで、難度としては目立った動きはなかったようです。

栄東の系列校、埼玉栄も各回次合計の応募者数は大きく増えています。医学・難関大・進学の3コース制で、同校自身の人気もありますが、栄東の入試も同校を会場に実施していて、午前午後で栄東と埼玉栄をセットで受験する「パック入試」で栄東の併願校として活用してもらおう、ということも行っています。「楽に受験できる」という点での評価も上がっています。合格最低点は各コース各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

進学校としての評価が高まっている大宮開成は、難化が続いていますがそれでも今年も各回次合計の応募者が少し増えて、4,000名を超えました。1月10日午前の1回は合格最低点が上がっていて、出題内容との関係はありますが、また難化したようです。12日午前

の特待選抜、14日午前の2回は難度に変化はなかったようです。

淑徳与野は医進コースを新設、在来コースは特進コースとし、医進コース専用の午後入試も実施しました。歓迎する受験生で応募者が大きく増加、各回次合計では浦和明の星を超えました。特進コースの合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなさそうですが、医進コースは今までよりワンランク高い難度だったようです。浦和明の星は1月14日の1回、2月4日の2回とも昨年とはほぼ同じ応募者数で、合格最低点も2回とも昨年並みです。難度に変化はなさそうです。

浦和実業の各回次合計の応募者数は昨年並みですが、回次ごとでは少し増減が見られます。併願受験生が多く、合格最低点は多くが昨年とあまり変わっていませんが、特待入試はやや上がっているものも見られ、全体としては昨年並みの難度、特待はやや難化と考えてよいでしょう。武南は、各回次合計の応募者数が少し増えていますが、1月10日午前、午後の2科4科入試が増加の中心です。特に都内北部のお試し受験生からの注目度が上がってきたようです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、不合格者があまり多くないことから、難度は変わっていないようです。

青学浦和ルーテルは1月10日午前の1回、13日午前の2回の両方の男女とも応募者の増加が目立ちます。以前の小規模な入試だった時が信じられないくらいの変化です。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、実際の受験者数が増えて合格者数は絞っていますから、難化は確実でしょう。なお、小規模募集だった国際学院が募集を休止しました。

国立・公立中高一貫校では、埼玉大附属と市立浦和が昨年並みの応募者数でした。難度面もあまり変わっていないようです。伊奈学園と市立大宮国際は応募者が少し増えました。1次の合格者が2次を受験して最終合格が決まる2段階選抜ですから、難度面にはあまり影響しなかったようです。川口市立は応募者が少し減っています。同校も2段階選抜ですし、もともと高倍率ですから、難度はあまり変わっていないようです。

3. 東武東上線南部・西武線方面

開智所沢中等は各回次合計で8,000名近い応募者がありました。岩槻の開智との併願がほとんどだったようですが、開智所沢中等を第一志望で考える受験生も

多かったようです。同校によると、同校に合格して入学手続きを行った生徒の過半数は東京都在住で、最多は練馬区、次が小平市、その次が府中市だったとのこと。この居住地から考えると、岩槻の開智は乗り換えが多くて通いにくく、浅草橋の開智日本橋学園は都心を通り抜けるので電車が混雑しますから、埼玉県の西部地区だけでなく、都内西部の受験生にもしっかり浸透した入試でした。先述したように、岩槻の開智も国際バカロレアで注目されていますが、開智所沢中等も同様です。こうした、グローバルを前提にした教育への期待をこの地域で一身に集めた結果なのでしょう。難度面は、大手公開模試の今後の集計を待つことになりませんが、特待合格、一般合格とも、岩槻の開智よりも1ランク程度入り易かったようです。

こうした開智所沢中等の開校は、この地域の各校に大きな影響を与えました。狭山ヶ丘高校附属、聖望学園、西武台新座はいずれも各回次合計の応募者が減っています。狭山ヶ丘高校附属は、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、受験者数の減少ほどは合格者が減っていないことから、少し入り易くなったかもしれません。聖望学園は合格最低点が昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。西武台新座は、1月10日午前・午後、11日午前・午後、14日午前の入試の合格最低点は、一部に上下が見られるものの、概ね昨年並みで難度に変化はなさそうですが、25日午前、受験者が減ったこともあって合格最低点が下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったのかもしれない。

細田学園は武蔵野線からの利便性が高い学校です。この地域では応募者が減った学校が多い中で、同校は各回次合計の応募者が増えています。増加の中心は1月10日午前と午後で、女子の増加が目立ちます。他校併願の受験生だけでなく志望順位が高い受験生も増えているのでしょう。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、受験者数の増加に対応して不合格者も増えていますから、難度面はあまり変わっていないようです。西武文理は、昨年並みの各回次合計の応募者数を維持しました。少しずつグローバル色が強くなっているようで、こうした点が評価されたのかもしれませんが。同校も本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、特待はともかく、一般合格者も多く、不合格者が少ないことから、少し入り易くなったかも

しれません。

立教新座は1月25日の1回、2月3日の2回とも昨年並みの応募者数でした。1・2回とも合格最低点は上がっていますが、出題内容の影響かもしれません。例年通り補欠繰上げも出ていますから、難度はあまり変わっていないようです。独特な教育方針の自由の森学園は各回次とも応募者の増加が目立ちました。例年合格最低点は公表されませんが、同校の性格上、難度はあまり変わっていないようです。この両校は開智所沢中等の影響はほとんどなかったようです。

川越エリアは、開智所沢中等の開校の直接の影響は武蔵野線や西武新宿線の狭山市エリアよりは小さかったようです。東上線北部地域や大宮方面とのつながりが強いかもしれません。城西川越は特選と総合一貫の2コース制です。各回次合計の応募者数は少し増えていて、1月10日午前・午後、11日午前・午後の増加が目立っています。合格最低点は上下が見られますが、出題内容の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

城北埼玉は各回次合計の応募者が減っています。さいたま市の学校に受験生が流れているのかもしれませんが。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。星野学園は理数選抜と総合選抜の2コース制で、同校は各回次とも応募者が少しずつ減っています。合格最低点は1月11日午前の理数選抜2回と14日の総合選抜の3科が下がっていて、他の回次は昨年並みです。理数選抜2回と総合選抜の3科は得点分布の影響でしょう。両コースの各回次とも難度に変化はなさそうです。寮制の秀明は今年も小規模な入試で、昨年並みの応募者数でした。

4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

この地域の北部に開智未来があります。同校は各回次合計の応募者が5割以上と大幅に増えました。岩槻の開智、開智所沢中等、茨城県の開智望中等や、都内の開智日本橋学園との併願が可能な入試を行っていますが、東京都などからお試して受験するには少し遠いことから、岩槻の開智や茨城県の開智望中等との併願受験生が大幅に増えたことが主な理由です。ただ、同校は国際バカロレアを実施しておらず、むしろ「未来

TED」などの独自の探究的な取り組みへの支持が中心でしょう。また、立地面で茨城県西部、栃木県南部、群馬県東南部からも通いやすいことで、もともと人気が上がりがやすい素地がありました。合格最低点は上下が見られますが、得点分布でT未来、未来、開智の3コースや特待の合格を決めていることもあって、難度は各コース各回次ともあまり変わっていないようです。

国際バカロレアでは開智グループより先輩格の昌平は、今年は各回次合計の応募者が少し減っています。同校の難化が進んできたことだけでなく、岩槻の開智人気上昇の影響もあるかもしれません。合格最低点は回次によって少し上下が見られますが、1月10日午前の1回、11日午後のTクラス算数入試、2月5日の4回は少し難化したかもしれません。他の回次は難度があまり変わっていないようです。春日部共栄はプログレッシブ政経とIT医学サイエンスの2コース制で、両コース各回次とも応募者が増加、人気が上がっています。両コースとも1月10日午前が合格最低点が上昇。少し難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度にも変化はないでしょう。

こうしたコース分けは行っていない獨協埼玉は、今年は1月11日午前、12日午前、17日午前の3回とも応募者が少し減っています。都内の足立区などから近

いこともあって、今年は都内からの受験生が少し減ったのかもしれませんが。11日午前が合格最低点が下がっていて、少し入り易くなったかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

5. 東上線北部・高崎線方面

この地域は児童数もあまり多くはなく、中学受験の規模もまだまだ小さい状況です。東上線側では東京農大第三は、各回次合計の応募者数が昨年並みで、合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度に変化はなさそうです。大妻嵐山は各回合計の応募者数が減っていますが、レベルアップを図って「まなび力入試」を取りやめたことが理由です。「まなび力エキスパート入試」を含め、他の入試は減っていません。難度面もあまり変わっていないようです。埼玉平成も各回次合計の応募者数が少し減っていますが、合格最低点も変化はなく、難度は昨年並みです。

高崎線側では東京成徳大深谷が昨年並みの応募者数ですが今年も小規模な入試です。本庄東高附属は3回の入試を2回にしたため、合計の応募者数は減っていて小規模な入試になっています。本庄第一も、今年も小規模な入試でした。

MEMO